

気になるこの本

菅直人首相が民主党代表選の際に「1に雇用、2に雇用、3に雇用」と絶叫していたのは記憶に新しい。確かにリーマンショック後、「派遣切り」「内定取り消し」「新卒者の就職難」と雇用に対する社会問題化は続いている。

しかし経営者側、特に中小企業経営者は「採りたくても優秀な人材が集まらない」とのなげきが相変わらず強い。ある種の雇用のミスマッチ状態は依然として存在、むしろ拡大している。

「3人に1人」見抜く法

30歳でリフォーム会社に転職。持ち前の技能を生かして「社員1人当たり」の会計データを導入し、一気に生産性を向上、入社3カ月で役員に昇進した。独立開業後は、会計

数値を駆使し「会社が従業員に期待する成績」を考案。大学や就活支援会で、仕事に対する意識改革を指導している。

文中では「次に訪れるのは赤字社員切りの動き」とスバリ。その定義は「会社利益に貢献する人は赤字社員、利益を減らす人は赤字社員」と単純。危険な赤字社員の実態は「3人に1人いて、その見抜き方は、学歴とはまったく無縁。ではその教育の仕方は？」などを解説。最も大切なのは「会社利益に貢献する」という本人のモチベーションと説く。最後に自己採点できる「活躍度」「リストラ度」診断テストも付いている。

香川晋平著

**東大卒でも
赤字社員
中卒でも
黒字社員**

会社が捨てるのは、利益を出せない人

私の給料なら、会社にいくら必要か?

決算書より大切なのは、会社への「利益貢献度」

3人に1人は赤字社員!

経済界

「東大卒でも赤字社員 中卒でも黒字社員」

香川晋平著

(経済界・840円) (畑)